



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 日清食品ホールディングス株式会社

コード番号 2897 URL <http://nissin.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 安藤 宏基

問合せ先責任者 (役職名) 取締役・CFO 兼 常務執行役員 (氏名) 横山 之雄

TEL 03-3205-5111

四半期報告書提出予定日 平成28年8月8日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け電話会議)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	115,481	10.0	6,824	21.8	7,071	△15.2	2,998	△44.9
28年3月期第1四半期	104,936	6.6	5,603	10.9	8,342	25.2	5,439	34.7

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △9,659百万円 (—%) 28年3月期第1四半期 8,755百万円 (286.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	27.76	27.60
28年3月期第1四半期	49.34	49.10

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	531,455	359,062	65.3
28年3月期	553,068	371,688	65.1

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 346,778百万円 28年3月期 360,042百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	40.00	—	40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	240,000	10.1	9,000	△27.4	11,500	△28.5	10,500	△2.9	97.20
通期	500,000	6.8	27,000	2.3	31,000	0.9	22,000	△18.2	203.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、【添付資料】P. 4(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、【添付資料】P. 4(会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示)をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期1Q	117,463,685 株	28年3月期	117,463,685 株
29年3月期1Q	9,428,284 株	28年3月期	9,438,151 株
29年3月期1Q	108,035,401 株	28年3月期1Q	110,232,449 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3(連結業績予想などの将来予測情報に関する説明)をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の我が国経済は、雇用・所得環境は改善しながらも、個人消費の停滞感が続く等、足踏み状態が持続しております。また、中国を始めとするアジア新興国や資源国の景気下振れや、海外経済における不確実性の高まり等により、我が国の景気が下押しされるリスクも存在しております。

このような状況の中、当社グループは平成29年3月期からの5ヵ年を対象とする「中期経営計画2020」に基づき、「本業で稼ぐ力」と「資本市場での価値」の向上を実現すべく、戦略テーマである①グローバルブランディングの促進、②海外重点地域への集中、③国内収益基盤の盤石化、④第2の収益の柱の構築、⑤グローバル経営人材の育成・強化に取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高では前年同期比10.0%増の1,154億81百万円となりました。利益面では、営業利益は前年同期比21.8%増の68億24百万円、経常利益は前年同期比15.2%減の70億71百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比44.9%減の29億98百万円となりました。

<連結業績>

(単位：百万円)

区分	平成28年3月期	平成29年3月期	対前年同期比	
	自平成27年4月1日 至平成27年6月30日	自平成28年4月1日 至平成28年6月30日	金額	%
売上高	104,936	115,481	+10,544	+10.0
営業利益	5,603	6,824	+1,221	+21.8
経常利益	8,342	7,071	△1,270	△15.2
親会社株主に帰属 する四半期純利益	5,439	2,998	△2,440	△44.9

報告セグメント別の業績の状況は、次のとおりであります。

① 日清食品

日清食品㈱の販売状況は、カップめん類が売上を伸ばし前年同期比で増収となりました。

カップめん類では、発売45周年を迎える「カップヌードル」群の売上が引き続き好調であったことに加え、カップヌードル初のプレミアムタイプで、これまでにない贅沢なスープが特徴の「カップヌードルリッチ」も売上増に貢献しました。また、発売40周年を迎えるロングセラー商品の「日清のどん兵衛」群は、特に主力の「日清のどん兵衛きつねうどん」が好調で、売上が大幅増となりました。同じく今年発売40周年を迎えた「日清焼そばU.F.O.」群も「エクストリーム」をテーマとした新CM、連動したWEBプロモーションが話題となり売上が好調に推移しました。袋めん類では、昨年リニューアルしたロングセラー商品「出前一丁」が引き続き売上を伸ばしました。

この結果、報告セグメントにおける日清食品の売上高は、前年同期比6.8%増の517億75百万円となり、セグメント利益は、前年同期比34.9%増の61億46百万円となりました。

② 明星食品

明星食品㈱の販売状況は、カップめん類では、「明星 一平ちゃん夜店の焼そば」シリーズの売上が前年同期をやや下回ったものの、袋めん類では、「明星 チャルメラ」シリーズが引き続き売上を伸ばしました。利益については、ブランド強化を目的とした拡販費・広告宣伝費等の販売費の増加による影響で前年同期を下回りました。

この結果、報告セグメントにおける明星食品の売上高は、前年同期比1.2%増の99億92百万円となり、セグメント利益は、前年同期比51.8%減の3億97百万円となりました。

③ 低温事業

日清食品チルド㈱の販売状況は、主力ブランド「行列のできる店のラーメン」、「日清の太麺焼そば」、「中華風涼麺」の売上が順調で、新製品「まぜ麺」も好調に推移し前年同期比で増収となりました。

日清食品冷凍㈱の販売状況は、具付きパスタ類、具付きラーメン類、お好み焼を中心に売上が伸長しました。具付きパスタ類では、もちっとした食感が特長の「冷凍 日清もちっと生パスタ」シリーズが引き続き好調でした。具付きラーメン類では、「辣椒担々麺」をはじめとする「冷凍 日清具多」シリーズや「冷凍 日清中華 汁なし担々麺大盛り」等汁なし麺が売上を伸ばしました。更に、冷凍うどん類も好調に推移し売上増に貢献しました。

この結果、報告セグメントにおける低温事業の売上高は、前年同期比1.1%増の149億75百万円となり、セグメント利益は、前年同期比129.5%増の5億95百万円となりました。

④ 米州地域

米州地域においては、米国及びメキシコで、価格競争の影響を受けにくい企業体質への改善を目指しております。米国では、市場のニーズに合った高付加価値商品の投入と既存ブランドの売上と利益の確保に取り組んでおります。また、前第3四半期連結会計期間より連結子会社化したニッシンフーズブラジルLtda.（旧社名 ニッシン・アジノモトアリメントスLtda.）の寄与もあり、セグメント全体では増収増益となりました。

この結果、報告セグメントにおける米州地域の売上高は、前年同期比59.5%増の128億5百万円となり、セグメント利益は、前年同期比8億38百万円増加の6億42百万円となりました。

⑤ 中国地域

中国地域は、中国大陸市場での販売エリア拡大（華北・東北・西南地区）と中国版カップヌードル「合味道」のブランド強化に取り組んでおります。また、平成27年9月末から華南地区を中心に価格改定を実施し、その浸透に努めております。売上については、「合味道BIG」及び「香港製造出前一丁」が引き続き順調に推移しておりますが、為替の影響もあったことから前年同期を下回りました。利益についても、為替の影響があったことから前年同期比で減益となりました。

この結果、報告セグメントにおける中国地域の売上高は、前年同期比13.2%減の83億82百万円となり、セグメント利益は、前年同期比9.5%減の7億70百万円となりました。

また、報告セグメントに含まれない事業セグメントである国内の菓子事業、飲料事業及び欧州地域、アジア地域を含んだ「その他」の売上高は前年同期比24.6%増の175億49百万円となり、セグメント利益は、前年同期比11億82百万円増加の11億42百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の当社グループの総資産は、前連結会計年度末に比べ216億13百万円減少し、5,314億55百万円となりました。当第1四半期連結会計期間末の資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

資産の減少につきましては、主に現金及び預金が217億5百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ89億87百万円減少し、1,723億92百万円となりました。これは主に未払金が25億49百万円減少したこと及び未払法人税等が30億61百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ126億26百万円減少し、3,590億62百万円となりました。これは主に為替換算調整勘定が56億88百万円減少したこと及びその他有価証券評価差額金が75億54百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の65.1%から65.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、平成28年5月12日に発表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想から変更は行っておりません。

なお、今後、業績に関して修正の必要が生じた場合には、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結会計期間より、PT. NISSIN FOODS INDONESIAは重要性が増したため連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社の有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法につきましては、従来、主として定率法を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より、定額法に変更しております。

当社は、中期経営計画の策定を契機に、また、その戦略テーマの「工場高度化投資」の実行にあたり、当社及び国内連結子会社の有形固定資産の稼働状況を検討したところ、設備は安定的に稼働しており、技術的に陳腐化のリスクも少ないため、今後は減価償却費を耐用年数期間にわたり均等に費用配分することがより適切であると判断し、定額法に変更したものであります。

この結果、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の減価償却費が732百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ535百万円増加しております。

（4）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	87,110	65,404
受取手形及び売掛金	61,391	53,530
有価証券	3,804	3,843
商品及び製品	12,444	14,899
原材料及び貯蔵品	14,724	14,179
その他	11,796	14,034
貸倒引当金	△347	△326
流動資産合計	190,923	165,566
固定資産		
有形固定資産		
土地	52,694	52,775
その他(純額)	116,191	117,448
有形固定資産合計	168,886	170,224
無形固定資産		
のれん	28,549	28,792
その他	13,740	13,643
無形固定資産合計	42,290	42,436
投資その他の資産		
投資有価証券	145,246	147,624
退職給付に係る資産	202	202
その他	5,894	5,552
貸倒引当金	△374	△150
投資その他の資産合計	150,968	153,228
固定資産合計	362,145	365,889
資産合計	553,068	531,455
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	51,324	48,940
短期借入金	18,457	18,624
未払金	31,301	28,752
未払法人税等	7,262	4,200
その他	22,539	21,516
流動負債合計	130,885	122,034
固定負債		
長期借入金	13,041	15,930
退職給付に係る負債	7,987	7,816
その他	29,465	26,611
固定負債合計	50,494	50,357
負債合計	181,380	172,392

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,122	25,122
資本剰余金	48,177	49,411
利益剰余金	293,803	291,984
自己株式	△35,836	△35,799
株主資本合計	331,267	330,720
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43,172	35,618
繰延ヘッジ損益	△261	△527
土地再評価差額金	△6,379	△6,379
為替換算調整勘定	△4,576	△10,265
退職給付に係る調整累計額	△3,178	△2,387
その他の包括利益累計額合計	28,774	16,058
新株予約権	1,859	2,088
非支配株主持分	9,786	10,195
純資産合計	371,688	359,062
負債純資産合計	553,068	531,455

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	104,936	115,481
売上原価	58,486	63,267
売上総利益	46,450	52,213
販売費及び一般管理費	40,847	45,388
営業利益	5,603	6,824
営業外収益		
受取利息	186	193
受取配当金	715	662
有価証券売却益	802	-
持分法による投資利益	636	360
為替差益	364	-
その他	183	153
営業外収益合計	2,889	1,370
営業外費用		
支払利息	95	92
為替差損	-	859
その他	54	170
営業外費用合計	150	1,123
経常利益	8,342	7,071
特別利益		
固定資産売却益	6	10
投資有価証券売却益	901	97
特別利益合計	907	107
特別損失		
固定資産廃棄損	84	34
貸倒損失	508	-
火災による損失	-	454
その他	9	7
特別損失合計	601	495
税金等調整前四半期純利益	8,648	6,683
法人税等	3,230	3,608
四半期純利益	5,418	3,075
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△20	76
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,439	2,998

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	5,418	3,075
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,383	△7,644
繰延ヘッジ損益	17	△265
為替換算調整勘定	701	△5,514
退職給付に係る調整額	△295	790
持分法適用会社に対する持分相当額	529	△100
その他の包括利益合計	3,337	△12,734
四半期包括利益	8,755	△9,659
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,883	△9,718
非支配株主に係る四半期包括利益	△127	58

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	48,478	9,878	14,807	8,029	9,654	90,848	14,088	104,936	—	104,936
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	940	1,612	277	0	31	2,862	5,969	8,832	△8,832	—
計	49,418	11,491	15,085	8,030	9,685	93,711	20,058	113,769	△8,832	104,936
セグメント利益 又は損失(△)	4,556	824	259	△195	851	6,296	△40	6,255	△652	5,603

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△652百万円には、退職給付関係費用466百万円、のれんの償却額△110百万円、セグメント間取引消去等17百万円、グループ関連費用△1,025百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日清食品	明星食品	低温事業	米州地域	中国地域	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	51,775	9,992	14,975	12,805	8,382	97,931	17,549	115,481	—	115,481
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	305	1,610	384	0	45	2,347	6,953	9,301	△9,301	—
計	52,081	11,602	15,360	12,805	8,428	100,278	24,503	124,782	△9,301	115,481
セグメント利益	6,146	397	595	642	770	8,552	1,142	9,694	△2,870	6,824

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内の菓子事業、飲料事業等並びに欧州地域、アジア地域を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△2,870百万円には、退職給付関係費用△1,097百万円、のれんの償却額△488百万円、セグメント間取引消去等△119百万円、グループ関連費用△1,165百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

「会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社の有形固定資産(リース資産を除く)の減価償却方法につきましては、従来、主として定率法を採用していましたが、当第1四半期連結会計期間より、定額法に変更しております。

この結果、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間のセグメント利益が、「日清食品」セグメントで249百万円、「明星食品」セグメントで114百万円、「低温事業」セグメントで34百万円、「その他」で136百万円増加しております。